

改善に向けて
問題点の原因を探る

7 課題や改善点を整理しよう

評価結果を受け止めよう

☆評価が持つ本来の機能

評価が持つ本来の機能として、「学習者である生徒が学習の到達状況を把握するもの」、「授業者である教師が学習指導の見直しにつなげるもの」という二つが挙げられます。生徒自身が自分の学習を振り返って、何が身に付いているか、どこが不十分であるかが分かり、学習の改善に資するものであるということだけでなく、教師・学校が学習指導や教育課程の在り方を問い直す情報として活用することを意味しています。

生徒の提出物を評価したとき、こちらが意図したものとは違う解答ばかりで、求めているものとは異なることがあったとします。そのとき、皆さんはどのように感じますか？「どうして理解してくれないのだろう？」と考えたことはありませんか。

そんなときは、生徒に提出を求めた課題について客観的に考える必要があります。課題への取組状況は、教師が実践した授業の成果を表わしています。自分の教え方に原因があったのではないか、設定した目標が生徒の学習状況と一致していなかったのではないかと振り返ることが大切です。

そして、そのような結果になった原因を探り、次には生徒の学習状況に合った課題を用意することで、より良い授業づくりにつながります。

評価結果を分析しよう

より良い授業づくりのために、前述の例で考えると、「提出物に書かれたものは、なぜ、教師が意図したものと違う解答ばかりなのか」について分析する必要があります。

その理由として、授業が分かりにくくて理解できなかった、適切な発問がなされなかった、学習の内容が難しくて分からなかった、書くための時間が不十分だった、書き方が分からなかった・・・など、いくつか考えられます。

生徒の実態から、原因を追求し、課題や改善点を整理しましょう。

個別支援
が必要な
生徒への
対応を考
えよう

生徒の様子にヒントがある

授業観察の際には、生徒の取り組んでいるあらゆる様子から、その意味を把握しようとするのが重要です。寝ている生徒、ボーッとしている生徒、その場にそぐわない発言をする生徒、おしゃべりする生徒、このような生徒はやる気のない生徒に見えます。しかし、何故そのような行動を取るのでしょうか。分からないと言えないために静かにしている生徒に目を向けることも授業を分析する大切な視点です。



自らの指導を振り返るチャンス

ワークシートに書かれた生徒の解答を見て、「生徒への指示が適切だったか」、「事前の指導で理解させるべきことが徹底できていたか」などと、自分の指導をもう一度、振り返ってみましょう。

〈例〉 「理科・化学」

理科・化学ワークシート

「実験で観察した化学反応についてまとめなさい。」

化学の授業で、実験後、このようなシートを提示し活動をさせたところ、生徒は様々な回答を書いていた。

生徒 A
の場合

希塩酸を加えたら、液体が白く濁り、試験管の底に沈殿が生じた。

生徒 B
の場合

実験で見た化学反応は「 $\text{Ag}^+ + \text{Cl}^- \rightarrow \text{AgCl} \downarrow$ 」だと思う。

生徒 C
の場合

よく分からない。

観察した生成物の色や反応の様子を記述したり、観察結果を化学反応式で説明したりと、記述の仕方がバラバラだということは、指示の仕方を反省する必要があるということです。ワークシートにも課題があるかもしれません。

また、生徒 C が「よく分からない」と解答した理由も考えます。実験の内容が分からないのか、うまく観察できなかったのか、ワークシートの書き方が分からないのか、時間がなくて分からないと書いたのかなど、いくつかの理由が考えられます。

これらの反省点を授業づくりにいかすようにしましょう。